



TITLE:

軍需工業動員法二就テ

AUTHOR(S):

櫛田, 民藏

CITATION:

櫛田, 民藏. 軍需工業動員法二就テ. 經濟論叢 1918, 7(1): 123-131

ISSUE DATE:

1918-07-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127400>

RIGHT:

京都帝國大學法學科大學

經濟論叢

第七卷 第一號

大正七年七月一日發行

論說

剩餘價格ノ成立……………法學博士 河上 肇

相續稅批評ノ重點(一)……………法學博士 神戶 正雄

扶養義務力救貧籍力……………法學博士 財部 靜治

さんちかりずむ概論(一)……………法學士 河田 嗣郎

黃宗義ノ政治經濟思想(一)……………法學士 小島 祐馬

經濟的行爲ト道德的行爲ト關係(一)……………法學博士 田島 錦治

分業論シテ福田博士ノ教ヲ讀フ(二)完……………文學士 高田 保馬

時事問題

小口落禁止問題……………法學博士 戸田 海市

軍需工業動員法ニ就テ……………法學士 櫛田 民藏

雜錄

英吉利ノ豫算……………法學士 河田 嗣郎

南露ニ於ケル獨逸住民(二)完……………文學士 長 壽吉

かあらいるノ「過去及ビ現在」……………文學士 石田 憲次

戰費調達問題(一)……………法學士 小島 昌太郎

軍需工業動員法ニ就テ

櫛田民藏

軍需評議院會及ビ軍需局官制ハ、去ル五月三十一日ヲ以テ發表セラレタ。問題ノ工業動員法ハ、我國ニ於テモ、漸ク實施ノ緒ニ就カントスルモノノ如シ。同法ニ就イテハ、既ニ法案發表當時ニ於テ朝野ノ間ニ議論ノ交換アリタレドモ、其ノ多クハ技術的見地ニ立ツモノニテ、社會的見地ニ立ツモノニアラズ。社會的見地ニ立ツ時ハ、法ノ根本趣旨其ノモノニ就イナモ尙ホ多ク議論ノ餘地ガアル。

思フニ、人ト金ト軍需品ノ三者ヲ平時ノ狀態ヨリ戰時ノ狀態ニ移スコトガ、所謂戰時動員(Kriegsmobilmachung)デアル。人間ノ動員ニ就テハ、國ニ依リ組織ヲ異ニスルガ、イヅレノ國ニモ早クヨリ所謂徵兵制度ナルモノアリ。併シ現時ノ戰爭ハ、單ニ人間ノミノ問題デナク、同時ニ之ガタメニ必要ナル貨物調達ノ問題デアル。一國ノ所要ノ貨物ハ、平時ニ於テハ大體貨幣サヘアレバ調達シ得ルガ、戰時殊ニ是ノ戰爭ノ如キ、世界的戰爭ノ場合ニアリテハ、一國ガ假令多クノ正貨ヲ有スルモ、其ノ必要トスル貨物ノ調達ハ容易デナイ。茲ニ於テ、各交戰國ハ、一方ニ於テ正貨ヲ適當ニ蓄積スルノ必要モアルガ、他方ニ於テ自國內ニ於テ、軍需品并ニ必需品ノ生産策ヲ樹ツ

ルノ必要アルト共ニ、之ガ國內ニ於ケル不必要ナル使用消費ヲ禁ズルノ必要ガアル。而シテ國家ガ此ノ生産策ヲ有效ニ行フタメニハ、國家ハ、中央銀行ヲ初メ、其他各種ノ金融機關ヲコノ目的ノタメニ活動セシメ、農工業ノ各方面ニ涉リ、コノ目的ニ適スルヤウニ其ノ技術的改良ヲ施スノ外、今日ノ社會ニ於テハ、其ノ企業經營ノ組織ニ就テ一定ノ改造ヲ加フルコトヲ必要トスル。蓋シ今日ノ經濟社會ハ所謂營利主義ヲ原則トシ、工業ニ就テ云ヘバ、官設工場ハトモ角、民間工場ハ、軍需品ト雖モ、一ノ商品トシテ所謂資本家の生産方法ノ下ニ生産セラレツツアリ。元ト資本家ノ目的トスル所ハ、利潤ノ増加ニアリテ、貨物生産額其ノモノノ増加ニアラズ。而シテ一定額ヲ超エタル貨物生産ノ増加ハ、價格ノ下落ヲ惹起シ、從ツテ利潤ノ減少ヲ來スコトアルガ故ニ、資本家ハ場合ニ依リテ、任意ニ其ノ生産ヲ制限スル。勞働者ノ目的トスル所モ亦タ資本家ト同ジク、賃銀ノ増加ニアリテ、貨物生産額ノ増加ニアラズ。故ニ勞働者ハ賃銀ノ値上其他自己ノ利益ノタメニ同盟罷工其他ノ方法ニ出ヅルコトアリ。之レガタメニ生産増加ノ妨ゲラルル場合少クハナイ。然レトモ國家ノ目的トスル所ハ、是等資本家勞働者ノ目的トスル所ト異ナリ、貨幣所得ノ増加ニアラズシテ、貨物生産物其ノモノノ増加ニアル。兩者ノ利害ハ必ズシモ一致シナイ。故ニ戰爭ノ如キ國家危急ノ秋ニ於テ、貨物殊ニ軍需品ノ如キヲ資本家の生産ノ下ニ其儘放任スル時ハ、國家ノ目的ハ遂ニ達スルヲ得ナイ。是レ國家ガ戰時ニ於テ、殊ニ軍需品ノ生産ニ就テ、一方ニハ技術的生産増加ノ方法ヲ講ズルト共ニ、他方ニ於テハ、其ノ平時ノ生産方法其ノモノニ干渉スル所以デアル。^{*}即チ國家ハ場合ニ依リ、資本家ニ對シテハ、軍需品及ビ其ノ生産ノ手段ヲ、國

* The Industrial Outlook 1917: W. H. Pringle, The state and Control of Industry.

家自カラ管理シ使用シ又ハ收用スルノ權利ヲ留保スル必要アルト共ニ、勞働者ニ對シテハ、同盟罷工其他生産ノ増加ヲ妨グルノ行動ヲ豫防シ又ハ禁止スルノ必要ガアルノデアル。コノ必要ハ歐米ノ如キ階級戰ノ甚シキ所ニ於テハ、一層甚シイ。通常貨幣銀行方面ニ於ケル戰時政策ト、農業方面ニ於ケル戰時政策トヲ併セ稱シテ經濟動員又ハ產業動員ト呼ビ、其ノ產業動員ノ内、特ニ軍需品工業ノ生産ニ關スルモノヲ、工業動員又ハ軍需工業動員ト謂フ。多少時ノ先後ト、其ノ干涉ノ程度ニ差ハアルガ、現ニ交戰國ニシテ、開戰以來、コノ經濟動員、殊ニコノ軍需工業動員ヲ實行セザルハナク、我國ノ如キモ、參戰以來、徵兵令ノ改正ト云ヒ、輸出禁止令ト云ヒ、船舶管理令ト云ヒ、全部若シクハ半バ戰爭ヲ目的トスル諸政策ヲ實施シタル外、最近第四十議會ニ於テハ、軍需工業動員法ノ通過ヲ見ルニ至ツタノデアル。

二

我が國ノ軍需工業動員法ハ、初メ全文十六條ヨリ成リ、去ル三月四日、政府案トシテ衆議院ニ提出セラレタノデアルガ、幾多ノ修正ノ後、同院ニテ可決セラレ、同二十七日、同院修正ノママ貴族院ヲ通過スルニ至ツタモノデ、全文二十二條ヨリ成ル。第一條ニ於テハ、軍需品ノ範圍ヲ、第二條乃至第十條ニ於テハ、軍需品及ビ之ガ生産ノ資本勞力ニ對スル處分ヲ、第十一條乃至第十三條ニ於テハ、軍需品ノ生産運搬及ビ貯藏ノ設備ニ關スル報告義務ヲ、第十四條乃至第十六條ニ於テハ、軍需品生産ノ保護獎勵並ニ監督ヲ、第十九條以下第二十二條ニ於テハ之ガ罰則ヲ規定シテ居ル。故ニ概シテ之ヲ云ヘバ、本法ハ軍需品ノ生産獎勵、監督並ニ處分ノ方法ヲ規定シタモノ

ト謂フコトヲ得ルガ、現下ノ時局ニ於テ、我國ハカカル立法ヲ必要トスルヤ否ヤ、假リニ其ノ必要ニシテ之レアリトスルモ、該法其ノモノハ、果シテ其ノ目的ヲ達スルニ適スルヤ否ヤ、假リニコノ方法ニ依リテ其ノ目的ヲ達シ得ベシトスルモ、立法ノ形式ニ缺クル所無キカ、之レガタメニ惹キ起サルベキ經濟上社會上ノ影響ハ如何等、コレニ關シテ起ル問題ハ、一ニシテ足ラザルガ、茲ニ問題トスル所ハ、第二ノ點、即チ本法ノ目的其ノモノト、本法トノ關係ニ就テデアル。

政府者ガ立法ノ目的トシテ掲グル所ニ依レバ、戰時ニ際シ軍需品ノ供給ヲ迅速確實ナラシムルタメ」トアリ、立法ノ趣旨トスル所ハ、平時ヨリ軍需品ノ生産能率ヲ増加シ置キ、有時ニ際シ有效ニ之ヲ動員セント云フニアル。即チ本法ノ目的トスル所ハ、平時ニ於テ軍需品ノ生産能率ヲ増加スルコト、及ビ戰時ニ於テ之ヲ有效ニ動員スルコトノ二ツデアル。而シテ、全文二十二條中、第二條以下第十三條ハ後者ニ該當シ、第十一條以下第十八條ハ前者ニ該當スルガ、是等ノ條項ハ果シテ以上ノ目的ニ副フモノナリヤ否ヤ。

先ヅ戰時ニ關スル規定ニ就テ見ルニ、第二條第三條第五條第六條ニ於テハ、イ軍需品ノ生産又ハ修理ヲナス工場(及ビ事業場)、其ノ工場及ビ事業場ニ要スル原料又ハ燃料ヲ生産シ、又ハ電力又ハ動力ヲ發生スル工場及ビ事業場、是等ノ工場ニ轉用シ得ル工場、ロ軍需品ノ生産又ハ貯藏ノタメ必要ナル土地家屋倉庫其他ノ工作物及ビ其ノ附屬設備ヲ管理シ使用シ又ハ收用スルノ權利、及ビハ軍需品又ハ軍需品ヲ生産スル工場ニ要スル燃料若シクハ原料ノ讓渡使用消費所持移動若シクハ輸出入ニ關シ、必要ナル命令ヲ發スルヲ得ルノ權利ヲ規定スル。即チ是等ノ規定ハ、軍需品及ビ軍需品ノ生産ニ必要ナル土地資本ノ管理使用收用ヲ規定シテアル。生産要素ハ土地資本ノ外勢力ヲ

要スルハ勿論ニシテ、之ガ生産ノ管理ニ就テ完キヲ得ンガタメニハ、コノ外ニ勞力管理ノ規定ナケレバナラヌ。之レガタメニ本法ハ第四條ニ於テ、政府ガ軍需工業ノ動員ニ際シ其ノ工業又ハ事業場ニ從事スル從業者ヲ併セ供用シ得ベキコト、第八條及ビ第九條ニ於テハ、兵役ニアルモノ及ビ兵役ニアラザルモノヲモ召集シテ徵用シ得ベキコトヲ規定シテアル。

我國ニハ、明治十五年大政官布告第四十三號ヲ以テ發布セラレタル徵發令ナルモノアリ。以上戰時ノ規定ハ、戰時ニ於テ所要貨物ノ生産資本又ハ勞力ノ徵用ヲ目的トスルモノデ、概シテ徵發令ノ改正擴張ト認ムルコトヲ得。其ノ異ナル所ハ、品目ヲ擴張シタル外、徵發令ガ所要貨物ノ使用收用ヲ目的トスルニ、本令ハコノ外其ノ管理ヲ目的トスルニアル。管理ノ意義如何ニ就イテハ、四月二十三日貴族院ノ委員會ニ於テ、一議員ノ質問ニ對シ、政府委員ハ「管理トハ政府ニテ指揮命令スルノ意ナリ、然シ事業ノ計算ハ事業主ノ計算ニ屬ス」ト答ヘテ居ルガ、其ノ所謂指揮命令ハ事實如何ナル場合ニ適用セラルルデアロウカ。之ガ適用ニ就テハ今一々ノ場合ヲ擧ゲテ考フルヲ得ナイガ、思フニ本法ニ所謂軍需品ノ生産ニ從事スルモノガ、最高利潤ノ獲得又ハ維持ノタメニ、生産ノ制限又ハ操業短縮ヲ行ヒ、不當ナル價格昂上ケヲ敢テスル場合ハ、勿論本法ノ適用ヲ受クベキデアロウ。併シ勞働者ガ同一目的ノ下ニ、同盟罷工其他所要貨物生産ノ増加ヲ妨グルノ行爲ニ出デシ場合ハ之ヲ如何ニスベキデアロウ乎。國家ガ所要貨物ノ生産増加ヲ目的トスル以上、コノ方面ニ就イテモ一定ノ指揮命令ヲ必要トスルガ、コノ點ニ關スル本法ノ規定ハ文義曖昧ニシテ、解釋ニ苦ム點ガ多い。即チ本法第四條第八條及ビ第九條ノ規定ニシテ、若シ國民ノ勞役義務ヲ定メタモノデアルナラバ、勞働者同盟罷工ノ禁止ハ、當然是等ノ法規ノ内容ヲナスモノデ、問

題ハ無イノデアルガ、是等ノ法規ハ文義上然カ解スルヲ得ナイ。其ノ文義ノ上ヨリ見レバ、是等ノ法規ハ單ニ勞働者ノ勞力徵用ノ順序ヲ示シタルニ留マリ其他ニ及バザルモノノ如シ。殊ニ第四條ノ如キハ「前二條ノ場合ニ於テ政府ハ從業者ヲ供用セシムルコトヲ得」トアレドモ、コハ雇主ニ對スル規定ナルカ又ハ勞働ニ對スル規定ナルカ。雇主ト勞働者トノ關係ハ、固ヨリ私契約タルニ留マリ、我國法上其ノ契約ノ解除ハ、原則トシテ雙方ノ自由ニシテ、雇主ノ工場ニシテ徵發セラレタレバトテ、勞働者ニ對スル特別ノ規定無キ限り、之レガタメニ其ノ勞働者ガ同時ニ徵發セラレベキ理由ハ毫モ無カルベキ筈デアアル。故ニ本條ニシテ若シ單ニ雇主ニ對スル其ノ使用勞働者ノ徵發規定ニシテ、直接其ノ勞働自身ニ對スル徵發規定ニアラズトセバ、勞働者ハ之ガ供用ニ服スベキ義務ガ無イ。思フニ此ノ如キノ立法ハ偶マ我國ノ立法者ガ、勞働者ヲ以テ雇主ノ奴隸又ハ工場ノ附屬物トスル因襲固陋ノ惡思想ヲ暴露シタモノテハアルマイカ。ソハ兎モ角、英國ノ軍需品法ノ如キハ、殊ニコノ點ニ重キヲ置キ、其ノ第一條ニ於テハ、勞働爭議ノ解決、其ノ第二條ニ於テハ、閉鎖及ビ罷工ノ禁止ヲ明白ニ規定スル。^{*}我國ニ於テハ、從來諸外國ノ其レニ比シ、コノ點ニツキ事實多クノ問題無カリシガ故ニ、立法者ノ意、或ハ故ラニコノ點ヲ看過シ去リシヤモ知ラサレドモ、近來ハ我國ニ於テモ、企業ノ勃興ト共ニ、同問題ノ益々重要ヲ加ヘツツアルハ事實ニシテ、昨年下半年以降コソ傾向ハ殊ニ顯著デアアル。故ニ立法者ニシテ若シ法ノ完キヲ期セントナラバ、豫メ先ゾコノ點ニ就テ何等カノ規定ガ無ケレバナラス。尙ホ是等規定ニ就テ問題トナルハ、其適用ノ順序ニ就テデアアル。第四條及ビ第九條ハ衆議院ノ修正追加ノ條項ニシテ、政府原案ニ於テハ、勞力徵用ノ規定ハ第八條ノ一條ノミデアツタ。政府案ノ如ク、兵役ニアル勞働者ノ徵

* Munitions War Act 1915.

用ノミニテハ、勞働者動員ノ完キヲ得ザルハ勿論、第四條及ビ第九條ノ如キ、固ヨリ無キニ勝ルト雖モ、衆議院ニ於ケル之ガ修正追加ノ目的ガ、工場主ヲシテ、兵役年齡ニアル強壯勞働者ノ徵用ヲ免レシメ、以テ之レガタメニ受クル工場主ノ損失ヲ防止スルニアルナラバ、余輩ノ賛成シ得ザル所デアル。何トナレバ、本法ニ於テ、財産ノ所有者ハ、其ノ財産ノ徵用ニ就テ特定ノ保障アルニ拘ラズ、努力ノ所有者ハ、何等ノ保障ナキノミナラズ、兵役ニ關係無キモノマデモ、之ガ負擔ヲ蒙リ、之レガタメニ兵役ニ關係アル勞働者ヲ使用スルモノガ、強壯勞働者徵用ノ負擔ヲ免ルルガ如キコトアラバ、決シテ公平ノ處置デ無イカラデアル。故ニ公平ヲ期セントナラバ、本法ノ適用ニ際シ、政府ハ先ヅ勞働者ノ徵用ニ就テハ、最先ニ第八條ヲ適用シ及バザル場合ニ第九條ヲ適用スベキデアロウ。

次ニ平時ニ於ケル軍需品生産能率増加ノ方法トシテノ本法ノ規定ヲ見ルニ、本法第十一條乃至第十三條ニ於テハ、事業主ニ對シ軍事上必要ナル事項ノ調査報告ノ義務ヲ、第十四條ニ於テハ軍需品生産獎勵ノ目的ヲ以テスル利益保證又ハ獎勵金ノ下附、並ニ之ガ監督處分ノ權利ヲ規定シ、第十六條及ビ第十七條ハ、工場臨檢ノ權利、並ニ其ノ權利ヲ實行スベキ場合ヲ規定シ、第十八條ニ於テハ保護工場繼承者ノ權利義務ヲ規定シテ居ルガ、生産ノ管理即チ主トシテ事業主ノ生産制限ニ對スル規定及ビ勞働者ノ同盟罷工ニ對スル規定ハ無イ。我國ノ金屬工業ハ戰爭開始以來著シク發達ハシテ居ルガ、其ノ程度ハ諸外國ノソレニ比シ未ダ固ヨリ遠ク及ハズ、之ガ發達ヲ期スルニハ工業金融ノ方面ニ於テ、經營組織ノ方面ニ於テ、乃至職工教育ノ方面ニ於テ、改善ヲ要スベキ點少ナカラズ、或ハ進ンデ之ガ保護獎勵ヲ計ルノ必要モアラン。然レドモ是等ハ共ニ軍需工業

獎勵策ト云フベク、軍需工業動員ト稱スベカラズ、苟クモ、動員ト稱スル以上ハ、其ノ企業經營ノ組織ノ改造ニ依ル生産増加ノ方法デナケレバナラス。歐米ノ諸國ガ工業動員ヲ實行シテ生産ヲ増加シツツアルハ、單ニ技術的方面ノ改良ニ依ルモノデハナイ。技術的方面ニ於テハ是等ノ諸國ハ戰前ニ於テ既ニ或程度ノ發達ヲ遂ゲツツアルモノナレドモ、其ノ企業經營ノ組織ガ依然營利主義ニ放任セラレタルガタメニ、資本家ハ自家ノ利益ノタメニ生産ノ制限ヲ行ヒ、機械ノ運轉ヲ停止シ、勞働者ヲ解雇シ、勞働者ハ亦タ自家ノ利益ノタメニ同盟罷工其他生産ノ増加ヲ妨クベキ行爲ヲ行フ。カクテハ假令何程技術ノ進歩發達アルモ、充分ニ之ヲ利用スルヲ得ズ、從ツテ軍國ノ經濟ハ完キヲ得ナイ。茲ニ於テ國家ハ一定ノ程度ニ於テ資本家ニ對シテハ收益制限ノ規定ヲ設ケ、勞働者ニ對シテハ同盟罷工ヲ禁止シ、國家自カラ軍需品ノ生産ヲ管理スルノ舉ニ出テタノデアル。交戰諸國ガ軍需品ノ生産ニ就キ、平時ノ十四倍、二十倍、又ハ物ニヨリ百數十倍ノ生産ヲ増加シ得タノハ其ノ結果デアル。今日交戰諸國ニ於ケル工業動員法ノ效果ハ、即チ當該企業ガ營利的生産方法ノ下ニ於テ、幾何ノ程度ニ徒ラニ生産力ヲ消耗シツツアルカラ事實ニ證明シタモノト云フコトガ出來ル。然ルニ我國ノ工業動員法ハコノ點ニ就テ規定スル所ガ無い。

三

斯ク考ヘ來レバ我國ノ軍需工業動員法ハ、其戰時ノ規定ニ於テハ、同盟罷工ニ對スル管理規定ヲ缺キ、平時ノ規定ニ於テハ、資本家勞働者双方ニ對スル管理ノ規定ヲ缺ク。余ヲ以テ見レバ既ニ述ベタ如ク、私企業ノ生産方法ニ對スル國家ノ管理ハ、本法ノ根本精神デアルカラ、假令其他ノ點ニ就テ法ノ遺漏無シトスルモ、コノ一點ニ就テ缺クル所アル以上ハ、其ノ目的ニ副フモノト

云フヲ得ナイ。一部ノ學者ハ、戰後ニ於テモ、交戰諸國ハ戰時動員法ノ全部又ハ一半ヲ繼續スルニ至ルベシト云フテ居ルガ、^{*}其ノ意ハ、戰時ニ於ケル國家的管理ノ精神ニ基キ平時ノ經濟狀態ヲ規律スルコトヲ意味スルモノデ、即チ資本家の生産管理ニ代ユルニ社會的又ハ國家管理ヲ以テセントスルモノデアル。故ニ今我國ノ工業動員法ニ就テ云ヘバ、戰時法規ノ全部又ハ一部ガ其儘平時ニ適用セラルベキデアル。然ルニ我國ノ工業動員法ハ、平時ノ準備法ナリト稱スルニ拘ラズ、之ヲ戰時平時ノ二部ニ分チ、其ノ國家管理ノ精神ハ只ダ戰時ニノミ之ヲ認メ、平時ノ場合ハ全然資本家の生産方法ヲ是認スルノミナラズ、却ツテ之ヲ獎勵セントスルハ、少ナクトモ諸外國ノ其レト根本精神ヲ異ニスルモノト云ハネハナラス。既ニ述ベタル如ク、戰時ノ必要ニ就テハ、徵發令ヲ改正擴張セバ足ル、特ニ本法ヲ必要トシナイ。其ノ特ニ本法ノ必要アラバ、ソハ我國ノ今日ニ於テハ、主トシテ軍需品ノ資本家の生産ヲバ、平時一定程度ニ國家管理ノ下ニ置カンガタメデナケレバナラス。然ルニ我が國法ハ、コノ點ニ就テ、軍需品及ビ軍需品關係ノ生産者ニ對シ、利益保證又ハ獎勵金下附ノ條件ノ下ニ、調査報告ノ義務ヲ命ジ、軍需品ノ生産修理貯藏又ハ軍事上必要ナル設備ヲナサシメ、其他事業ノ監督及ビ之ガ多メ必要ナル命令若シクハ處分ノ權利ヲ留保スルモ、國家自カラ生産資本ヲ管理シ使用シ收用スルコトヲ得ナイ。故ニコノ點ニ於テ國家ト軍需品生産者トノ關係ハ、普通ノ保護事業ニ於ケルト異ナル所ナク、之ヲ一ノ軍需品工業保護獎勵法ト云ハバ兎モ角、正シキ意味ニ於テ工業動員法ト云フヲ得ナイ。而シテ現下ノ時局ニ於テ、カカル軍需工業保護獎勵策ノ必要アリヤ否ヤ、又々其ノ經濟上社會上ノ影響如何ノ問題ハ、自カラ別個ノ考察ヲ必要トスル。

* Kriegshefte des Archivs für Sozialwissenschaft und Sozialpolitik Heft III. 1915, E. Jaffé, Die Militarisierung unseres Wirtschaftslebens.